

消防団とは

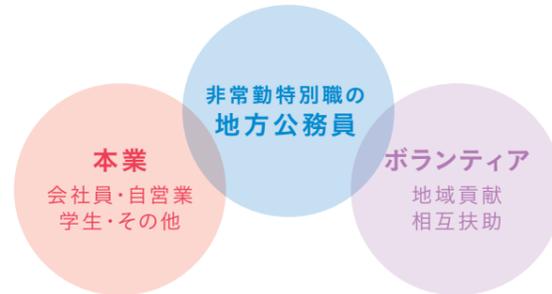
消防団は市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は**本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員**として、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防防災活動を行っています。

その活動は消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助活動、避難誘導、災害防御活動など非常に重要な役割を果たしています。さらに、平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等、地域に密着した活動を展開しており、地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団の特性

消防団の構成員である団員は、自らの意思に基づく参加、すなわちボランティアとしての性格も併せ有しています。

消防団は、大規模災害時をはじめとして、地域の安全確保のために大きな役割を果たしています。例えば、阪神・淡路大震災において、日頃から消防団を中心に行政機関と住民による自主防災組織との緊密な連携があった淡路島の北淡町（当時）では、激震地であったにもかかわらず、被害は最小限に抑えられました。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。



特性 1 地域密着性

構成員である団員は、地域の住民であることが多く、地元の事情等に通じ地域に密着した存在。

特性 2 要員動員力

団員数は、全国で78万3,578人（令和4年4月1日現在）と、常備職員（消防士）の約5倍の人員。

特性 3 即時対応力

団員は、日々技術向上に努め、教育訓練に励み、災害発生時には即時に対応できる能力を保有。

消防団の活動

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。

また近年は、女性の消防団への参加も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

平常時の活動

- 1 防火指導・啓発活動・高齢者訪問
- 2 応急手当の普及活動
- 3 広報活動

災害時の活動

- 1 消火活動
- 2 救助活動
- 3 避難誘導

消防団員の報酬

多くの市町村で年額報酬や災害活動または訓練に出勤した際の報酬などが支給されます。また、以下のような待遇もあります。

公務災害補償

公務上の災害によって被った損害については公務災害補償制度に準じて補償されます。

退職報償金

消防団員が退職した場合、市町村から慰労金の性格として退職報償金が支給されます。

消防団へ入団するには

1 お近くの消防団を探す

「消防団オフィシャルウェブサイト」から探してください。

2 消防団へ問い合わせる

ご希望の消防団に電話・メール等でお問い合わせください。

3 あなたも消防団員に!

案内に従い、入団手続きが完了すれば、晴れて「入団」となります。

[お問い合わせ先]

消防団への入団手続きについて、詳しくはお問い合わせ先へご連絡いただくか、消防団オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

消防団に関する詳しい情報はWEBで 検索 <https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/>



「和牛消防団」
動画公開中

FDMA 総務省消防庁
住民と心で Fire and Disaster Management Agency



消防団員募集中

FDMA 総務省消防庁
住民と心で Fire and Disaster Management Agency

学生向け

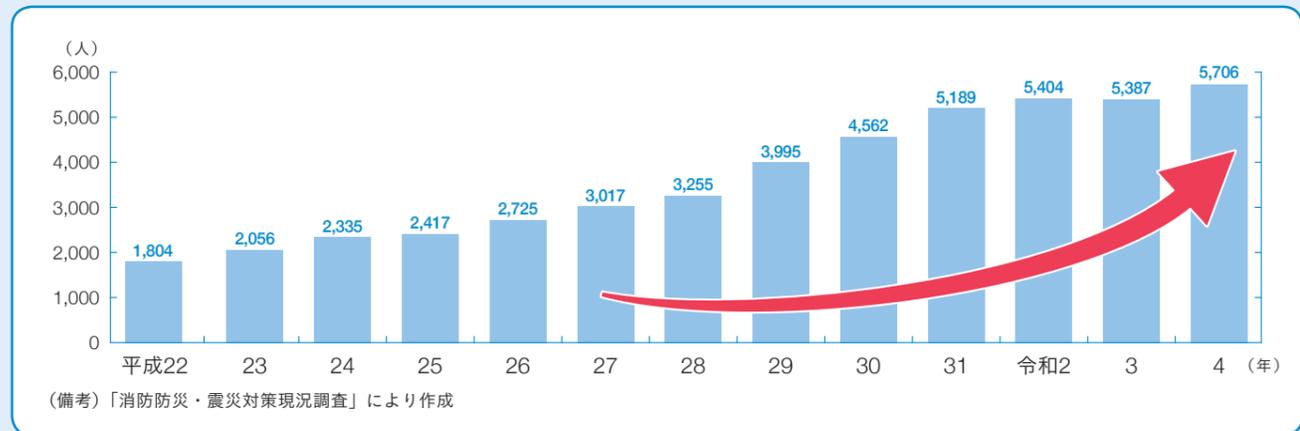


消防団はつながりが生まれる場です

学生消防団員

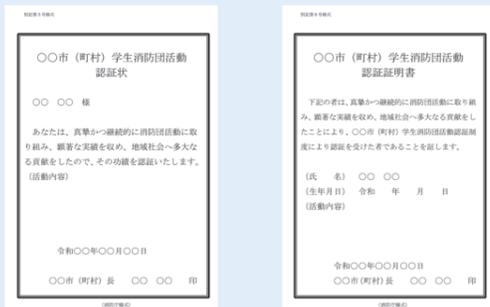
令和4年4月1日現在で5,706人の学生消防団員が活躍しています。例えば愛媛県の松山市消防団では、大規模災害時に避難所等で応急救護や物資配布等の支援を主な任務とする「大学生防災サポーター」が活動しています。平常時には、市の防災訓練などで訓練を積むとともに、広報活動、応急手当や心肺蘇生法等の普及指導活動も行っています。

学生消防団員の推移 (令和4年4月1日現在)



学生消防団活動認証制度 (平成26年11月～)

「学生消防団活動認証制度」は、消防団員として活動した学生に対し、市町村長が「学生消防団活動認証証明書」を交付するものです。この証明書は、**消防団員として地域に貢献してきた実績として就職活動の自己PRなどで活用できます。**なお、本制度は大学や経済団体へ周知されています。



消防庁動画チャンネル Join us!

学生消防団員の活動内容やアンケート・インタビュー、討論会等、「学生のホンネ」や「消防団の今」を動画でわかりやすく紹介しています。



学生消防団員インタビュー

金丸実佑さん

所属：京都市左京消防団浄楽分団
職業：大学生

消防団に入団できる18歳で消防団員になった金丸さん。「地域の役に立ちたい」という強い思いを伺いました。

地域の密なつながりから消防団へ

母が応急救護分団に所属していたこともあり、小さい頃から消防団は身近な存在で、入団のお誘いも受けていました。それで、18歳になったときに入団しました。普段は毎月2回の巡回広報、山林訓練、放水訓練、防災訓練といった訓練に参加しています。地域のつながりが強いので、節分やお祭り、運動会、そして大文字の送り火と催しがたくさんあり、その警備を担当することも多いです。自分たちがずっと消防団の方々に見守ってもらってきたので、今度は自分が地域を守りたいと思っています。



訓練で身についた災害時の行動

消防団員として活動してきてよかったと思うのは、火災や事故に遭遇してもすぐに対応できるようになったことです。一度、分団庫の近くで火災に直面したときは、サンダルを脱ぎ捨てて駆け出し、バケツリレーで水を運んで消火しました。道路の真ん中で事故が起きていたときも、車を誘導し、救急車や警察を呼ぶなど、すぐに行動することができました。地域の方に「消防団に女性もいてくれると安心するわ」と声をかけてもらったことも嬉しかったです。学生であり、女性である自分も役に立てているのだと励みになりました。

もっと仲間を増やしていきたい

分団の先輩は優しく、頼りがいのある方ばかり。警備の際の誘導の仕方など、先輩のアドバイスによってうまくできるようになったことはたくさんあります。また、先輩から「予定があるときは、無理なくいいんやで」とお気遣いいただけるので、学業と両立しながら、無理なく自分のペースで活動ができています。ただ、同世代や女性の団員はまだ少ないので、今後も積極的に消防団を広めていきたいと思っています。



裏面には、消防団の基本情報やお問い合わせ先などがあります。ぜひご覧ください。